

令和元年第3回定例会一般質問通告事項

	前田孝人議員（尾道未来クラブ）	質問方式：一括質問方式
9月	<p>1 尾道市が組織的に行っている退職幹部職員等の外郭団体等への「天下り」はやめるべき</p> <p>(1) 尾道市の外郭団体や出資法人また社会福祉法人等の役員や管理職に、市役所を退職した部課長等が、当然のごとく指定席として固定化された高位のポストに再就職する。いわゆる「天下り」。これは早急にやめるべきだがどうか</p> <p>(2) 市役所を退職した部課長等が、日替わりメニューのように3年～5年で交代し上席者として着任する。何十年たっても高位のポストに就くことの出来ない、外郭団体等の生え抜き職員の「意欲」や「やる気」を考えたことがあるか</p> <p>(3) 尾道市の外郭団体や出資法人等が役員や管理者等を必要とするのであれば、市役所を退職した幹部職員等の指定席にするのではなく、広く公募を行い有能な人材を登用し、もっと開かれた団体として、組織の活性化を図るべきだと思うがどうか</p>	
6日	<p>2 厳しい経営に直面している尾道市の病院事業</p> <p>(1) 尾道市民病院とみつぎ総合病院の統合、再編について</p> <p>ア 厳しい経営にある尾道市民病院とみつぎ総合病院を、統合、再編して非公務員型の地方独立行政法人へ移行し完全に独立採算で経営すべきであると思うがどうか</p> <p>イ 両病院を統合、再編し、尾道市民病院は建て替え新築し、最新の設備や機器を整備するとともに救急救命センターを設置。急性期医療、救急医療、高度医療等を集約し、尾三医療圏域における中核病院の役割を担うこととする。みつぎ総合病院は回復期から維持期、慢性期の医療を提供し、回復期リハビリテーションを実施し、医療後の介護、施設サービスなどに特化する。このような経営の方向性を打ち出すべきだがどうか</p> <p>(2) 病院事業管理者について</p> <p>ア 片岡前病院事業管理者は4年間の在任であったが、医師確保や経営改善の結果というか成果が何も見えてこない。この任命が正しかったのかどうか検証が必要と思うがどうか</p> <p>イ 病院事業の経営者として結果を求められることとなる突沖新病院事業管理者。今後の病院経営や改革また医師確保に対する決意のほどは</p>	

<p>9 月  6 日</p>	<p>(3) 市民病院改革プラン。評価委員会の意見は</p> <p>ア 数値目標が目標値を下回っているのは、医師不足が原因であり、医師が確保できれば改善できるといった主旨の評価委員会の意見であるが、評価委員会はまず医師が確保できていないことの問題点、また医師不足を理由にするのではなく、医師不足の中で取り組んできた結果がどうであったのか等もっと突っ込んだシビアな意見を出す必要があったのではないか。この評価委員会は本当に機能していると言えるのか</p> <p>イ 評価委員会の意見が出たが、これを受け止めて令和2年度が最終年度である改革プラン。6項目の未達成項目をはじめ市民病院の医師確保、黒字化に向けて、今後の経営改革をどのように押し進めて行くのか</p>
---------------------------------	---